

令和 5 年 4 月 14 日

国土交通省関東地方整備局

京浜港湾事務所

令和 5 年度 京浜港湾事務所の事業概要について

京浜港湾事務所では、令和 5 年度においては、以下の事業を実施します。

1. 横浜港新本牧ふ頭及び本牧ふ頭においては、近年のコンテナ船の大型化及び増大するコンテナ貨物の取扱に適切に対応し、海上輸送コストの削減や、基幹航路の維持・拡大に資するコンテナターミナルの再編整備などを進めます。
2. 川崎港においては、東扇島地区への物流機能の集積化に伴い、慢性化する交通混雑の緩和と、広域防災拠点への陸送ルート多重化を図るため、東扇島地区と内陸部を結ぶ臨港道路の整備を進めます。

※詳細については別紙のとおり

<発表記者クラブ>

竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ、神奈川建設記者会、神奈川県政記者クラブ、川崎記者クラブ、物流専門紙

<問い合わせ先>

所 属 国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所

氏 名 副所長 佐藤 伸一（さとう しんいち）

統括建設管理官 鈴木 誠 （すずき まこと）

第一工務課長 福本 裕哉（ふくもと ひろや）

保全課長 齋藤 竜司（さいとう りゅうじ）

電話： 0 4 5 - 2 2 6 - 3 7 6 5

FAX： 0 4 5 - 2 2 6 - 3 7 5 6

横浜港国際海上コンテナターミナル再編整備事業

令和5年度事業費:222.87億円

【神奈川県】直轄

事業の概要

コンテナ船の大型化や船社間の連携による基幹航路の再編等、海運・港湾を取り巻く情勢が変化
する中、基幹航路に就航する大型船の入港や、増加するコンテナ貨物の取扱いに適切に対応し、我が
国に寄港する基幹航路の維持・拡大を図るため、横浜港においてコンテナターミナルの再編整備を
進めます。

令和5年度予定

- 本牧ふ頭地区D5岸壁(水深16m) および荷さばき地の地盤改良工、本体工、舗装工、付属工を実施する予定です。
- 新本牧地区岸壁(水深18m～)および護岸(防波)の地盤改良工、基礎工、本体工、裏込工を実施する予定です。

事業の効果

- コンテナ貨物の増加とコンテナ船の大型化に適切に対応することにより、海上輸送コストの削減等が可能となります。
- アライアンス拠点港としての利便性を高め、北米・欧州基幹航路の維持・拡大を図ることにより、物流効率化による我が国産業の国際競争力強化に寄与します。
- 耐震岸壁の整備により、震災時においても物流機能が維持されることで、我が国の産業活動と市民生活の安全・安心を確保します。



横浜港南本牧ふ頭地区国際海上コンテナターミナル整備事業

令和5年度事業費： 1.2億円

【神奈川県】直轄

事業の概要

国際コンテナ戦略港湾である京浜港の一翼を担う横浜港において、近年のコンテナ船の大型化及びコンテナ貨物量の増加に対応し、円滑な物流を確保するため、南本牧ふ頭地区において大水深の国際海上コンテナターミナルの整備を進めています。

令和5年度予定

○岸壁(水深18m)の陸上電源設備整備に係る設計を実施する予定です。

事業の効果

- 横浜港におけるコンテナ取扱能力の向上が図られます。
- 大型コンテナ船による効率的な輸送が可能となり、物流コストの低減が図られます。
- 耐震化により、震災時においても物流機能が維持されます。



よこはま こうみなみほんもく やました どうちく りんこう どうろ せいび じぎょう
横浜港南本牧～山下ふ頭地区臨港道路整備事業

R5年度事業費:2.52億円

【神奈川県】直轄

事業の概要

横浜港におけるコンテナ貨物の増大に伴い、コンテナ荷役の主力である南本牧ふ頭及び本牧ふ頭と背後圏との間、並びに流通機能が集積する大黒ふ頭との間を流動するコンテナ貨物車両が増加しており、交通渋滞が発生しているため、平成21年度から、南本牧ふ頭と本牧ふ頭を結ぶ臨港道路を整備し、物流関連車両の陸上輸送機能の強化を図っています。

また、混雑区間の回避による円滑な輸送体系の構築、一般道路の混雑緩和を目的に、本牧ふ頭から山下ふ頭におけるⅡ期区間(延伸)部を追加し整備を進めていきます。

令和5年度予定

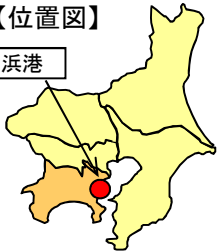
○Ⅱ期区間(延伸)部の調査・設計を実施する予定です。

事業の効果

- 新たな臨港道路の整備により、横浜港と背後圏との間、並びに港内を流動する港湾物流関連車両の交通が円滑化し、産業立地環境の向上と物流コストの低減が図られ、首都圏をはじめとする産業の国際競争力が強化されます。
- 全線完成時には南本牧ふ頭から本牧ふ頭へは6分、大黒ふ頭へは7分の時間短縮が見込まれます。
- 南本牧ふ頭へのアクセス道路が多重化されることで港湾物流関連車両の動線が確保される為、事故や災害等の発生時においても円滑なコンテナターミナルの機能が確保されます。

【位置図】

横浜港



凡 例

黄色	直轄
赤色	補助
緑色	令和5年度直轄予定



平成30年 10月撮影

Product © 2018 DigitalGlobe, Inc.

川崎港東扇島～水江町地区臨港道路整備事業

令和5年度事業費：135.45億円

【神奈川県】直轄

事業の概要

国際コンテナ戦略港湾である京浜港の一翼を担う川崎港において、コンテナターミナルでの貨物取扱量の増加や日本随一の冷凍冷蔵倉庫群等のロジスティクス機能の充実に伴う将来交通量の需要の増大に対応し、円滑な物流を確保するため、東扇島地区と内陸部を結ぶ臨港道路を整備しています。

令和5年度予定

○東扇島地区・水江町地区における橋梁の上部工、下部工等を実施する予定です。

事業の効果

○川崎港と背後圏のアクセスが向上します。

○基幹的広域防災拠点[※]が立地する東扇島と背後圏を結ぶ緊急物資輸送ルートが多重化され、首都圏の防災機能の強化が図られます。

※基幹的広域防災拠点：災害時には、緊急物資輸送の中継基地や広域支援部隊等の一時集結地・ベースキャンプとして機能する施設。通常時には、公園としても機能する。

